

『きょうは、お米のお話をしよう』

「お米のなる植物は何かな？」

「はい、イネです。ぼくの家でもうえているよ。」

「その通り、イネだね。では、イネが生まれたふるさとはどこかな？」

「・・・・・・・・」

「実はね。イネは南の国の植物なんだよ。暑い国で生まれたんだ。」

「へえー。だから、寒さはにが手なんだ。」

「すずしい夏はお米がとれないとお父さんが言っていたよ。」

「冷害と言ってね。穂がよく実らないんだよ。」

「ふうーん。イネもぼくたちと同じで暑い夏が大好きなんだね。」

「そうだね。福小っ子はみんなプールが大好きだものね。」

「早く来年にならないかなあ。また泳ぎたくなってきちゃった。」

「アッハッハッハ。ところで、イネにはね、もう一つ大好きなものがあるんだよ。

これがないと生きられないんだ。」

「何かなあ。栄養かなあ・・土かもしれないなあ。」

「いいカンしてるね。栄養も土も大切だよ。あとないかなあ。」

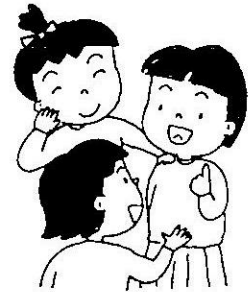
「わかった！ 暑い夏とくればアイスだ。」

「イネがアイスを食べるの？ でも、いいヒントになるよ。」

「そうか、わかったぞ。 だ！」

「イネは特にたくさんの を必要とする植物なんだよ。」

どんなお話かな？



水田の稲は一日に1cmの水をすうそうだよ。すると一月で30cmになるね。とても人間がジョーロでかけてあげられる量じゃないね。自然の水ってえらいなあ。



へえーっ
稲って
すごいなあ。

今から百年もむかしの日本には、会社や工場はほんのわずかしかなかった。ですから人々は、米を作って食料にしたりそれを売って生活していました。少しでも多くの米を収かすることが生活を豊かにすることだったのです。

ところが、たくさんの水を必要とするイネを育てるためには川の近くに田を作らなければなりませんでした。

むかしの人たちは、~~水~~をもとめて大変な苦勞をしたのです。